令和８年度　文京区立金富小学校　授業改善推進プラン

第５学年

教科	指導上の成果と課題の分析	授業改善の具体的な方策
国語	【思考・判断・表現】 １学期の達成率は、49.5％であった。内容は理解しているため、選択問題は解くことができるが、自分の考えを理由とともに表現することに課題が見られる児童が多い。	・文章や資料から根拠となる情報を見つけ、自分の考えと結び付けながら表現する活動を多く取り入れる。 ・友達と考えを伝え合う中で、様々な考え方に触れ、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。
社会	【知識・技能】 １学期の達成率は 83.9％であった。都道府県名や主な山や川の名前、世界の大陸と主な海洋の名称や、国土の気候と地形について、理解が不十分な児童が多い。	・ＩＣＴ機器や地図帳を活用し、地理について学習する機会を増やす。 ・各単元の中で、各国の位置や地形の特徴を確認し、他国との繋がりを関連付けて学習できるようにする。
算数	【思考・判断・表現】 １学期の達成率は、52.7％であった。公式を使って体積を求めることはできるが、直方体や立方体の体積について既習の面積の求め方を基にして公式を説明したり、単位同士の関係を説明したりすることなどが苦手な児童が多い。	・ＩＣＴ機器のデジタル画像や教材を活用し、空間的な図形を視覚的に捉え、部分に分けて求積したり求積の仕方を説明したりする活動を多く取り入れる。 ・単位の変換については、具体物を用いて実際の量や大きさを体感できるようにする。
理科	【思考・判断・表現】 １学期の達成率は 65.6％であった。知識・技能の定着は図れていたが、文章で書く問題は正答率が低い傾向があった。理解している内容を文章にして表現することが苦手な児童が見られた。	授業の中で予想や考察を書くときに、相手に伝わる文章になるように意識して書くようにする。またペアやグループ内で発表させ、伝わる内容になっているか確認する。
体育	【思考・判断・表現】 運動経験に差があり、技能ポイントの理解や児童同士の教え合い、伝え合いができない児童が多い。また、自己の動きを客観的に捉えることができず、課題に向き合えていないことも多い。	・動きのポイントを資料で示したり、教師が教えたりすることで自己や相手の課題に気付きやすくする。 ・一人一台端末を活用し、自らの動きを客観的に捉え、課題を解決できるようにする。
音楽	【思考・判断・表現】 答えを気にして、感じ取ったことを自分の言葉で表したり、自分がどのように表現したいかについて考えをもったりすることが苦手な児童が多い。	授業の中で「分かった」「できた」と児童が実感できるように、分かりやすい授業づくりをしていく。また、不安が強い児童には、次授業の内容について事前に共有し見通しをもたせたり、スモールステップで授業を進めたりすることで、安心して取り組めるようにする。

図画工作	【知識・技能】 すすんで活動に取り組んだり、表現活動を楽しんだりする姿が多くみられるが、表したいことに合せて用具や表し方を選んだり工夫して表す力が低い児童がいる。	これまでの学習経験を振り返りながら、表現の面白さ、違い、効果などを確認することで、表したいイメージを表すための技能を高めていく。
家庭	【知識・技能】 食生活と家族・家庭生活では基本的な知識・技能が身についている児童が多い。一方衣生活では手縫いの目的に応じた縫い方が身に付いていない児童が多い。	・一人一台端末を活用し、縫い方の手順をいつでも確認できるような環境を作る。 ・児童が「できた」と実感し意欲を持つことができるように、実態に応じた課題を設定する。そのために、ふりかえりで「玉結びができた」「玉止めができた」などの項目を作り、自身の成長を感じることができるようにする。
体育	【思考・判断・表現】 運動経験に差があり、技能ポイントの理解や児童同士の教え合い、伝え合いができない児童が多い。また、自己の動きを客観的に捉えることができず、課題に向き合えていないことも多い。	・動きのポイントを資料で示したり、教師が教えたりすることで自己や相手の課題に気付きやすくする。 ・一人一台端末を活用し、自らの動きを客観的に捉え、課題を解決できるようにする。